

(案)

第 6 次 地 域 管 理 經 営 計 画 書  
第 6 次 国 有 林 野 施 業 実 施 計 画 書

(大分中部森林計画区)

計画期間

自	令和	4年	4月	1日
至	令和	9年	3月	31日

九州森林管理局



(案)

# 第 6 次 地 域 管 理 經 営 計 画 書

(大分中部森林計画区)

計画期間

自	令和	4年	4月	1日
至	令和	9年	3月	31日

九州森林管理局



はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割に当たる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、あわせて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うこととされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等の面での期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつさらに多様化してきた。特に、国有林野に対しては、地球温暖化防止、生物多様性の保全の面での期待が大きくなってきた。加えて、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているものの、地域によっては、国有林野に隣接する民有林野において十分な整備や保全が行われていない状況もみられる。また、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、我が国の林政は、森林・林業の再生に向け、大転換を進めており、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行した。

加えて、我が国では、多くの森林が利用可能な段階を迎える中で、民有林においては、森林の経営管理の集約化が喫緊の課題となっており、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、市町村が森林所有者から森林の経営管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に再委託を行い、林業経営の集積・集約化を推進するとともに、再委託できない森林及び再委託に至るまでの森林においては、市町村が公的管理を行う森林経営管理制度が平成31年4月から導入された。あわせて、市町村が実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、平成31年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、同年4月から一部が施行された。

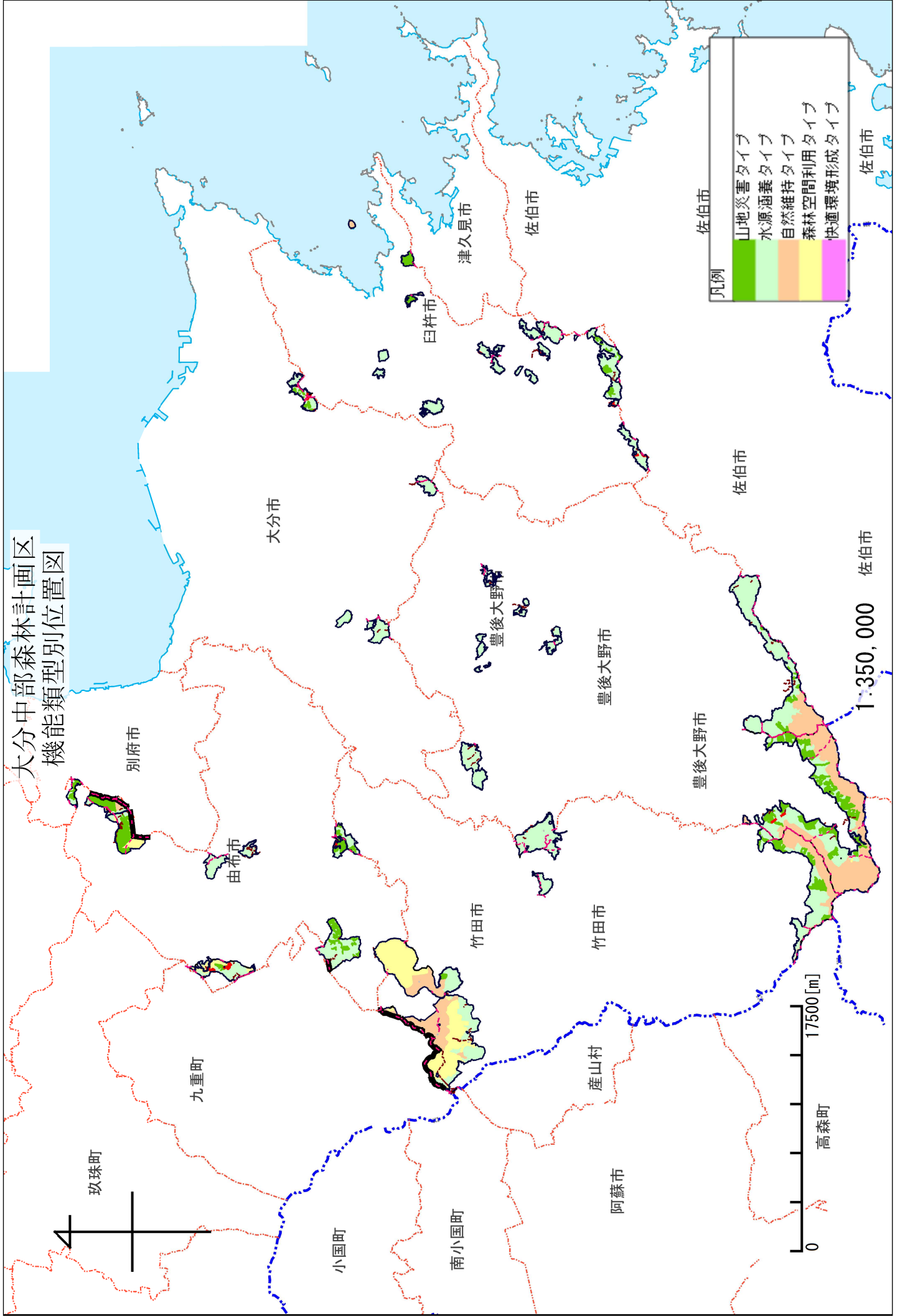
これらを踏まえ、国有林野事業は、冒頭の目標の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して林業の成長産業化の実現に向け貢献するための取組を進めていく。

本計画は、国有林野の管理経営に関する法律（昭和26年法律第246号）第6条第1項の規定に基づいて、九州森林管理局長が、国有林野の管理経営に関する基本計画に即し、国有林の地域別の森林計画と調和させ、あらかじめ国民の意見を聴いた上で、今後5年間の大分中部森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めたものである。

大分中部森林計画区における国有林野の管理経営は、関係住民の理解と協力を得ながら、さらに、関係行政機関と連携を図りつつ、この計画に基づいて適切に行う。



# 大分中部森林計画区 機能類型別位置図







## 目 次

1	国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
(1)	国有林野の管理経営の基本方針	1
①	森林計画区の概況	1
②	国有林野の管理経営の現状及び評価	1・2
③	持続可能な森林経営の実施方向	2・3
④	政策課題への対応	4
(2)	機能類型に応じた管理経営に関する事項	4
①	機能類型ごとの管理経営の方向	4・5
②	地区ごとの管理経営の方向	5・6
(3)	森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項	7
①	林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及	7
②	林業事業体の育成	7
③	民有林と連携した施業の推進	7
④	森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター）等による技術支援	7
⑤	その他	7
(4)	主要事業の実施に関する事項	7・8
①	伐採総量	8
②	更新総量	8
③	保育総量	8
④	林道の開設及び改良の総量	9
(5)	その他必要な事項	9
2	国有林野の維持及び保存に関する事項	9
(1)	巡視に関する事項	9
(2)	森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項	9
(3)	特に保護を図るべき森林に関する事項	9
(4)	その他必要な事項	9・10
3	林産物の供給に関する事項	10
(1)	木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	10
(2)	その他必要な事項	10
4	国有林野の活用に関する事項	10
(1)	国有林野の活用の推進方針	10
(2)	国有林野の活用の具体的手法	10
(3)	その他必要な事項	10

5	公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項	… 1 0
	(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項	… 1 0 ・ 1 1
	(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項	… 1 1
6	国民の参加による森林の整備に関する事項	… 1 1
	(1) 国民参加の森林に関する事項	… 1 1
	(2) 分収林に関する事項	… 1 1
	(3) その他必要な事項	… 1 1
7	その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	… 1 1
	(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	… 1 1
	(2) 地域の振興に関する事項	… 1 2
	(3) その他必要な事項	… 1 2

# 1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

## (1) 国有林野の管理経営の基本方針

国有林野の管理経営は、国有林野の管理経営に関する基本計画に即するとともに、国有林の地域別の森林計画と調和して、機能類型区分等による公益重視の管理経営を一層推進し、その組織・技術力・資源を活用して林業の成長産業化の実現に向け貢献することを基本方針とする。

### ① 森林計画区の概況

本計画の対象は、大分中部森林計画区を管轄区域とする国有林野15,527ha（不要存置林野7haを含む。）であり、大分川、大野川及び臼杵川の源流部に位置している。

くじゅう連山、由布岳、祖母傾山系は、優れた森林景観に恵まれていることから、阿蘇くじゅう国立公園と祖母傾国定公園に指定され、また、由布岳を由布鶴見岳自然休養林に設定しており、登山等の森林レクリエーション・保健休養の場として多くの人に利用されている。

さらに、祖母山から傾山に至る稜線部周辺は、特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが生息していることや原生的な天然林がまとまりをもって存在していることから、森林生態系保護地域に設定し、倉木山の北側斜面に分布するアカガシ等を主とする天然群集（大石檜山）を希少個体群保護林に、また、くじゅう連山の黒岳の天然林はミズメ等を希少個体群保護林に設定している。これらの森林は、学術的にも貴重な森林として自然環境の保全・形成、学術研究等に重要な役割を果たしている。

また、計画対象区域のほとんどが水源<sup>かん</sup>涵養保安林、土砂流出防備保安林を主体とした保安林に指定されており、水源の涵養や山地災害防止のための森林として重要な役割を担っている。

### ② 国有林野の管理経営の現状及び評価

本計画区の国有林は、大分森林管理署が管理経営しており、本計画の対象とする国有林野面積は15,520haで計画区全体の森林面積148,324haに対して10%を占めている。主な樹種としては針葉樹はスギ、ヒノキ、広葉樹はブナ、ナラ類、カエデ類などとなっている。

また、林相別に見ると針葉樹林5,180ha、針広混交林4,121ha、広葉樹林5,097haとなっている。

蓄積は3,618千 $m^3$ で、計画区全体の蓄積43,900千 $m^3$ に対して8%を占めている。

森林の種類は、普通林が1,295haで8%、制限林が14,225haで92%となっている。

なお、制限林の99%が保安林であり、そのうち水源<sup>かん</sup>涵養保安林が89%となっている。

大分中部森林計画区内の森林資源状況

(単位：ha、 $m^3$ )

区分	人工林	天然林	その他	合計
面積	6,023	8,374	1,122	15,520
蓄積	1,975,726	1,642,486	-	3,618,212

注：合計は四捨五入の関係で必ずしも一致しない。

主要施策に係る前計画の計画量と実行量について下表に示す。

伐採立木材積に関して主伐は、分収林の契約延長や入札の不調により計画量を下回り、造林面積もこれに連動して下回る結果となった。

間伐については、搬出条件等の整備が整わなかったため計画量を下回った。

林道の開設等については優先度を考慮し、台風等による被災箇所など計画以外の箇所を優先して実行したこと等から計画を下回った。

#### 主要施策に係る計画量と実行量

項目	計画	実行
伐採立木材積	290,000m <sup>3</sup>	163,506m <sup>3</sup>
主伐	85,700m <sup>3</sup>	54,348m <sup>3</sup>
間伐	204,300m <sup>3</sup>	109,158m <sup>3</sup>
造林面積	140ha	50ha
人工造林	139ha	50ha
天然更新	1ha	- ha
林道等の開設又は改良	開設：5.8 km 改良：12箇所	開設： 3.4 km 改良： 6 箇所

注：計画の臨時伐採量は主伐に含めた。

#### ③ 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林<sup>もり</sup>」の実現を図り、現世代から将来世代へ森林からの恩恵を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分や森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいく。

また、持続可能な森林経営については、日本はモントリオール・プロセスに参加しており、この中で森林経営の持続可能性を客観的に把握し評価するための7基準（54指標）が示されている。本計画区の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる施策及び森林の取扱方針を整理すると次のとおりとなる。

I 生物多様性の保全	<p>地域の特性に応じた多様な森林生態系を保全していくため、針広混交林等からなる多様な林相の森林を整備及び保全していくとともに、貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護・保全するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。関連する主な施策として、厳格な保全・管理を行う保護林のモニタリング調査等を通じた適切な保全・管理等を推進するとともに、原生的な天然林や里山林、溪畔林、保護樹帯等を各々の林相に応じ適切な整備・保全を行い、森林生態系のネットワークの構築を図る。</p>
------------	---

<p>II 森林生態系の生産力の維持</p>	<p>森林としての成長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な実施と伐採後の更新確保による健全な森林の整備とともに、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。関連する主な施策として、計画、設計、施工の各段階において森林生態系との調和を図りつつ、林道（林業専用道を含む。以下同じ。）及び森林作業道の適切な組合せによる路網の計画的な整備を推進する。</p>
<p>III 森林生態系の健全性と活力の維持</p>	<p>外部環境から受ける影響から森林の劣化を防ぐため、森林病虫害や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。関連する主な施策として、松くい虫被害のまん延防止のため、薬剤による防除、伐倒駆除等に取り組むとともに、シカによる森林被害の状況を踏まえ、被害防除及びシカの捕獲を推進する。</p>
<p>IV 土壌及び水資源の保全と維持</p>	<p>降雨に伴う侵食等から森林を守るとともに、森林が育む水源の涵養のため、山地災害により被害を受けた森林の整備、復旧や公益的機能の維持のために必要な森林の保全を行うとともに、森林施業においても裸地化する期間の短縮や尾根筋や沢沿いでの林分の存置を行う。関連する主な施策として、安全・安心に暮らせる環境づくりを目指して、民有林と国有林が連携した効果的な治山対策に取り組む。</p>
<p>V 地球の炭素循環への森林の寄与の維持</p>	<p>地球温暖化防止に貢献するため、温室効果ガスの吸収源と位置づけることのできる森林を確保するため育成林の整備を推進するとともに、天然生林の保全を行うほか、森林整備の円滑な推進と炭素の貯蔵庫としての機能を維持するため木材利用を推進する。関連する主な施策として、除間伐を主体に森林整備を推進するとともに、治山事業における間伐材等の利用促進や間伐材を使用した紙製品の普及に取り組む。</p>
<p>VI 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進</p>	<p>国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮に取り組むとともに、森林浴や森林ボランティア、環境教育等森林と人とのふれあいの確保のためのフィールドの提供や森林施業に関する技術開発等に取り組む。関連する主な施策として、「レクリエーションの森」のPRや施設整備等に努めるなど、「国民の森林」として充実を図るとともに、学校のカリキュラムへの森林環境教育の導入、「遊々の森」の設定の推進、教職員を対象とした森林教室の実施等、学校との連携の強化に取り組む。</p>
<p>VII 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組</p>	<p>I～VIで記述した内容を着実に実行し「国民の森林」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。関連する主な施策として、国有林モニターを活用し、国有林野事業等に対する意見、要望等を聴取するとともに、国有林野事業の運営等について国民の理解の促進を図る。</p>

④ 政策課題への対応

本計画区の国有林では、国土保全や水源涵養等の公益的機能の維持増進、林業の成長産業化の実現に向けた取組、森林環境教育や森林とのふれあい、国民参加の森林づくりの推進、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの政策課題に対応している。

とりわけ、林業の成長産業化の実現に向けた取組としては、低コストで効率的な施業技術の普及、計画的な事業の発注や技術支援による林業事業者の育成、民有林・国有林一体となった森林共同施業団地の設定と取組の充実、市町村をはじめとする民有林関係者に対する技術的支援に取り組む。

(2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項

① 機能類型ごとの管理経営の方向

公益的機能の維持増進を旨とした管理経営を行うため、

- ・ 山地災害防止タイプ  
(土砂流出・崩壊防備エリア、気象害防備エリア)
- ・ 自然維持タイプ
- ・ 森林空間利用タイプ
- ・ 快適環境形成タイプ
- ・ 水源涵養タイプ

の機能類型区分を行い、重視すべき機能の発揮を目的とした管理経営を行う。

なお、地域別の森林計画における公益的機能別施業森林との関係は下表のとおり。

○ 機能類型と公益的機能別施業森林の関係

機能類型		公益的機能別施業森林			
		水源涵養機能維持増進森林	山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林	快適環境形成機能維持増進森林	保健機能維持増進森林
山地災害防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	○	○		
	気象災害防備エリア	○	○	○	
快適環境形成タイプ		○		○	
水源涵養タイプ		○			
自然維持タイプ		○	○		○
森林空間利用タイプ		○	○		○

また、機能類型区分に応じた管理経営にあたっては「管理経営の指針」（別冊）によるほか、次の点に留意して、個々の森林の自然条件や社会的条件を踏まえて適切に行う。

なお、各機能の発揮を図るために導入する林相の維持・改良等に必要の施業により生じる木材については、有効利用を図る。

また、齢級構成の平準化やニーズに応じた主伐を計画的に行うことにより木材の供給を図る。

ア 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプは、土砂の流出・崩壊、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他災害に強い国土基盤の形成に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、次の事項に留意して、保全対象と当該森林の位置的関係、地質や地形等の地況、森林現況等を踏まえた適切な管理経営を行う。

山地災害防止タイプのうち、土砂流出・崩壊防備エリアでは、根系が深くかつ広く発達し、常に落葉層を保持し、適度の陽光が入ることによって下層植生の発達が良好であり、必要に応じて土砂の流出・崩壊を防止する治山施設等が整備されている森林を整備の目標とする。

山地災害防止タイプのうち、気象害防備エリアでは、樹高が高く下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸被害に対する抵抗性の高い樹種によって構成される森林を目標とする。

イ 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項

自然維持タイプは、原始的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等自然環境の保全に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、原則として自然の推移に委ねるとともに、生物多様性の保全等に配慮した管理経営を行う。

ウ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項

森林空間利用タイプは、スポーツ又はレクリエーション、教育文化、休養等の場及び優れた景観の提供に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの保健・文化的利用の形態に応じた管理経営を行う。

エ 快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他快適環境形成タイプに関する事項

快適環境形成タイプは、騒音の低減や大気の浄化、木陰の提供等による気象緩和等地域住民の居住環境を良好な状態に保全する機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの機能に応じた管理経営を行う。

オ 水源涵養<sup>かん</sup>タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養<sup>かん</sup>タイプに関する事項

水源涵養<sup>かん</sup>タイプは、国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、渇水緩和や水質保全等の水源涵養<sup>かん</sup>機能を高めるため、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系や下層植生の発達が良好で諸被害に強い森林の整備を目標として管理経営を行う。

② 地区ごとの管理経営の方向

ア 祖母・傾山地区（2001、2003～2039、2041～2049、2070、2071林班）

祖母山（1,756m）、障子岳（1,703m）、本谷山（1,643m）、傾山（1,602m）の北側斜面の急峻な地形で、風致景観に優れているとともに貴重な動植物の生息・生育地であり、稜線部を森林生態系保護地域に設定し、また、倉木山（923m）の稜線に位置する大石榎山（600～850m）を希少個体群保護林に設定しており、自然環境の保全形成等を重視すべき森林であることから、「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、その下流域は急傾斜地であるとともに河川が多く、水源涵養<sup>かん</sup>機能や山地災害防止

機能を重視すべき森林であることから、「水源涵養<sup>かん</sup>タイプ」または「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

イ くじゅう山地区（2061～2069、2072林班）

九州本土の最高峰、中岳（1,791m）を中心に久住山（1,787m）、星生山（1,764m）、三俣山（1,745m）稲星山（1,774 m）等が連なり、山腹上部は急傾斜で基岩が露出した険阻な地形を呈しており、尾根のいたるところにミヤマキリシマが群生しているほか、コケモモ、シャクナゲ、ベニドウダンの群落も見られる。全体的に雄大な自然景観に恵まれ阿蘇くじゅう国立公園の要所となっており、自然環境の維持や保健文化機能を重視すべき森林であることから、「自然維持タイプ」または「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、その下流域は、農業用水等として1日に数万トンの湧水量を誇る竹田市の水源となっており、水源涵養<sup>かん</sup>機能を重視すべき森林であることから、「水源涵養<sup>かん</sup>タイプ」に区分して管理経営を行う。

ウ 三宅・神角寺地区（2051～2058、2060林班）

全般的に緩傾斜の丘陵地帯から形成されており、スギ、ヒノキの人工林となっている。全域が水源涵養<sup>かん</sup>保安林に指定され、水源涵養<sup>かん</sup>機能を重視すべき森林であることから、「水源涵養<sup>かん</sup>タイプ」に区分して管理経営を行う。

エ 大分地区（3、4、10～13、17～20、24～27、46～56、225林班）

由布岳から鶴見岳に連なる北西向きの地域（11～13林班）は、急斜面であるうえ安山岩等の火山噴火物で覆われていることから地盤がもろく、雨水に侵食されやすい地質であり、山地災害防止機能を重視すべき森林であることから、「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

オ 白杵、大野地区（28～36、38、41～43、57～72、167～177林班）

白杵川源流部（41～43林班）、大野川支流の野津川源流部（57～65林班）及び白杵地区（174～177林班）は、水源涵養<sup>かん</sup>保安林、土砂流出防備保安林等の保安林に指定されており、水源涵養<sup>かん</sup>機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから、「水源涵養<sup>かん</sup>タイプ」または「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、大野川支流周辺（28～36林班）は、近隣に集落地が広がり水田に使用する溜池等も隣接しており、水源涵養<sup>かん</sup>機能を重視すべき森林であることから、「水源涵養<sup>かん</sup>タイプ」として管理経営を行う。

カ 野稻岳地区（21、215～217、225、227林班）

水分峠から野稻岳を経て山下池に至り県道11号線（通称やまなみハイウェイ）の西側地域と三俣山北部に位置する地域で、地形は急斜面が多く、一部には風衝地もみられる。

また、一帯は水源涵養<sup>かん</sup>保安林に指定されており、水源涵養<sup>かん</sup>機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから、「水源涵養<sup>かん</sup>タイプ」または「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、地区の一部は、阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、観光客の利用も多く、風致景観の向上等自然環境の保全・形成を重視すべき森林であることから、「森林空間利



用タイプ」に区分して管理経営を行う。

(3) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者と連携して推進する森林の流域管理システムの下、森林の有する多面的機能の持続的発揮を基本としつつ、我が国の森林・林業の再生に貢献していくため、県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織・技術力・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組む。

また、これらを通じて、木材の生産から利用までの全ての段階において生産性向上やコストの低減、歩留まりの向上等による林業及び木材産業の成長産業化の実現に貢献し、地域経済の発展や山村地域の振興に寄与するよう努める。

① 林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及

産学官連携の下、林業の低コスト化に向けた技術開発の推進に努め、特に、特定母樹等の成長に優れた苗木の活用等による低コスト造林技術の開発・実証と定着を図る。

国有林野事業において開発、改良された林業技術については、現地検討会の開催、モデル林、各種試験地等の設置等を通じて、地域林業関係者等への普及・定着を図る。

② 林業事業者の育成

民有林行政と連携しつつ、林業事業者への計画的な事業の発注、安定的・計画的な木材の供給及び林業事業者の育成に努める。あわせて、森林経営管理制度の定着に向けては、民有林において事業を実施する意欲と能力のある林業経営者の育成が重要であることから、国有林野事業に係る事業を委託する場合にはこうした林業経営者の受注機会の拡大に配慮する。

さらに、流域で生産された木材の利用促進、木材の安定供給システム販売の推進及びニーズに応じた安定供給ができるよう木材需給情報の交換に努める。

③ 民有林と連携した施業や民有林材との協調出荷の推進

森林共同施業団地の設定により、民有林・国有林一体となった効率的な路網の整備、計画的な間伐の実施等に努める。

④ 森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター）等による技術支援

現地研修会の実施や研修フィールドの提供、森林総合監理士（フォレスター）の育成等を通じて、民有林の人材育成支援に努める。

また、県と連携して市町村の森林・林業行政等に対する技術支援に積極的に取り組む。

⑤ その他

国民の森林としての管理経営を推進する観点から、森林環境教育の推進、生物多様性の保全に係る取組（関係機関と連携した野生鳥獣被害対策の実施等）の推進、安全・安心の取組に係る情報提供等に努める。

(4) 主要事業の実施に関する事項

本計画及び前計画期間における伐採、更新、保育及び林道の事業総量は以下のとおりである。

事業の実施に当たっては、効果的かつ効率的な実施に努め、国土の保全、自然環境の保全、

生物多様性の保全等に十分配慮しつつ、森林吸収源対策として間伐に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化や里山の整備等、地域の現況を踏まえ、資源の循環利用を行いながら多様で健全な森林の整備・保全を推進する。

なお、森林資源の成熟に伴い主伐が増加していく中で、その実施に際しては、自然条件や社会的条件を考慮して実施箇所を選定するとともに、造林コストや花粉の少ない森林への転換、鳥獣被害等に配慮しつつ、公益的機能の持続的な発揮と森林資源の循環利用の観点から確実な更新を図る。

更新・保育については、伐採事業との一体的な実施や新たな林業技術の導入等による造林・育林作業の低コスト化に取り組む。

林道等の路網については、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう施業方法に応じて計画的に整備する。

また、労働災害がなく、健康で明るく働けるように労働安全衛生の確保に努めるとともに、計画的な事業の発注等により林業事業体の育成を図る。

① 伐採総量 (単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分	主 伐	間 伐	臨時伐採量	計
本 計 画	77,101	187,085 (1,815)	18,814	283,000
前 計 画	65,000	196,368 (1,934)	11,229	290,000

注：( ) は、間伐面積である。

② 更新総量 (単位：ha)

区 分	人工造林	天然更新	計
本 計 画	123	19	142
前 計 画	139	1	140

注：四捨五入の関係で計は一致しない。

③ 保育総量 (単位：ha)

区 分	下 刈	つる切	除 伐	ぼう芽整理
本 計 画	375	103	110	-
前 計 画	507	17	36	-

④ 林道の開設及び改良の総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	延長量(m)	箇所数	延長量(m)
数 量	6	3,800	19	9,500

- (5) その他必要な事項  
該当なし。

2 国有林野の維持及び保存に関する事項

(1) 巡視に関する事項

① 山火事防止等の森林保全巡視

本計画区のくじゅう山系及び祖母傾山系は国立公園及び国定公園に指定されており、レクリエーションを目的とした森林への入込利用者が多く、また、春先には国有林周辺の牧草地で野焼き等が行われるため、これらの箇所を中心に地元住民及び地元市町村等との連携を密にして山火事防止のPR、啓発活動を行うとともに森林保全巡視を強化し、山火事の未然防止に万全を期する。

また、廃棄物の不法投棄については、地元市町村等関係機関、森林保全巡視員及びボランティア団体との連携の強化を図り防止に努める。

② 境界の保全管理

境界標の巡検及び境界巡視を確実にを行い、境界の保全管理に努める。

(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項

森林病虫害による被害の早期発見及び早期駆除を図るために、適切な森林の巡視に努める。

(3) 特に保護を図るべき森林に関する事項

貴重な自然環境を有する天然林等が多数存在しており、生物多様性の保全を図る観点から、保護林として設定し適切に保護・保全を図っていくとともに、巡視活動やモニタリング調査を通じた適切な保全・管理を推進する。

(4) その他必要な事項

本計画区の国有林野の大半が水源涵養保安林に指定されているなど、水源涵養<sup>かん</sup>の上で重要な森林が多く存在することから、保安林等の適切な管理に努める。

深刻化しているニホンジカなどの野生鳥獣による森林被害については、その防止に向け、鳥獣保護管理施策や農業被害対策等との連携を図りつつ、被害状況の把握に努め、その結果を踏まえて、防護柵の設置等の防除活動や、地元行政機関、狩猟者団体、森林組合、森林所有者等との協力による計画的な捕獲等を総合的かつ効果的に推進する。

また、自然災害等により劣化した森林の再生・復元に努めるとともに、ボランティア団体

等と協働・連携し、荒廃した植生の回復措置を行うなど、森林生態系の保全等のための取組について、環境行政との綿密な連携を確保しつつ推進する。

### 3 林産物の供給に関する事項

#### (1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

国有林材の計画的・安定的な供給を通じて、地域における安定供給体制の整備や木材の新たな需要の拡大、原木の加工・流通の合理化等に資するため、需要先と事前に協定を締結し、その協定に基づき計画的に丸太を供給する安定供給システム販売に取り組む。

さらに、民有林・国有林が連携しつつ合理的な販売・流通体制の確立を目指し、国産材の需要・販路の拡大に努める。

#### (2) その他必要な事項

林産物の供給に当たっては、効果的かつ効率的な取組を推進することとし、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムによる木材生産やニーズに応じた安定供給に努める。

また、庁舎等の整備、森林土木工事等の公共工事において木材利用の促進に取り組む。

### 4 国有林野の活用に関する事項

#### (1) 国有林野の活用の推進方針

国有林野の活用に当たっては、地域の社会的・経済的状況、住民の意向等を考慮し、地域における産業の振興、住民の福祉の向上等に資するよう、国有林野の管理経営との調整を図りつつ、積極的に推進する。

本計画区のくじゅう山系一帯は、阿蘇くじゅう国立公園に指定され、自然景観に優れており保健休養の場としての入込者も多いことから、自然景観の維持、向上に配慮しつつ、地域観光の振興にも資するよう国有林の活用を推進する。

#### (2) 国有林野の活用の具体的手法

国有林野の活用に当たり、道路等の公用・公共用地等については貸付け又は売払い等による。

また、水源林造成等については分収林制度を積極的に活用する。

#### (3) その他必要な事項

該当なし。

### 5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

#### (1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項

国有林野に隣接・介在する民有林野の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が行われず、当該民有林野における土砂の流出等の発生

が国有林野の発揮する国土保全等の機能に悪影響を及ぼすなど、国有林野の公益的機能の維持増進への支障となることが懸念される場合がある。

このような場合、国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した施業等を民有林野と一体的に行い、民有林野の有する公益的機能の維持増進にも寄与するよう、公益的機能維持増進協定制度の活用に努める。

## (2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

公益的機能維持増進協定の締結に当たっては、民有林野の森林所有者等にも原則として相応の費用負担を求めるなど、合理的な役割分担の下での一体的な森林の整備及び保全の実施に向けた条件整備を進める。

## 6 国民の参加による森林の整備に関する事項

### (1) 国民参加の森林に関する事項

ボランティア団体等との協定に基づく「ふれあいの森」等により、国民の自主的な参加による森林整備活動等を推進する。

### (2) 分収林に関する事項

森林に対する国民の要請が多様化する中で、社会貢献活動として森林づくりに自ら参加・協力したいという企業等の要請に応えるため、分収林制度の活用による森林整備を推進する。

### (3) その他必要な事項

協定の締結により継続的に体験活動ができる「遊々の森」等を活用して、豊かな自然環境を有する国有林野を多様な体験活動の場として積極的に提供し、森林環境教育の推進に努める。

また、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導、森林環境教育のプログラムや教材の提供等を積極的に推進する。

さらに、森林管理署等は、国民参加による森林の整備・保全等に関する情報の提供、国民からの相談への対応、国民参加の支援を行う拠点としての機能の発揮を行うよう努める。

## 7 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

### (1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

多様な森林づくりに向けて、育成複層林化や天然更新などの課題について、フィールドを設定し、有識者からの助言を得つつ実証的な検討を行う。

また、研究機関等が行う林業技術の開発及び林業機械の導入試験等に対しては、フィールド提供を積極的に行う。

(2) 地域の振興に関する事項

機能類型に応じた適切な管理経営を行い、山地災害の防止、水源の涵養<sup>かん</sup>、自然環境の保全、保健・文化・教育的利用、木材の安定供給等を通じて地域振興に寄与<sup>かんと</sup>するよう努める。また、その際には次の点に留意する。

- ① 分収造林及び国有林野の利活用の要請に対しては積極的に対応する。
- ② 林道については、地域の実態を踏まえ、生活道路としての機能の発揮に十分留意する。
- ③ 蜂蜜の採取源となる樹種については、事業実行との調整を図りつつ、その保全に努める。

(3) その他必要な事項

該当なし。

(案)

第 6 次 国 有 林 野 施 業 実 施 計 画 書

(大分中部森林計画区)

計画期間

自	令和 4 年 4 月 1 日
至	令和 9 年 3 月 31 日

九州森林管理局





## 目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2 施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの 伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
(1) 伐採造林計画簿	1
(2) 水源涵養 <sup>かん</sup> タイプにおける施業群別面積等	1
(3) 水源涵養 <sup>かん</sup> タイプの施業群別の上限伐採面積	2
(4) 伐採総量	2
(5) 更新総量	3
(6) 保育総量	3
3 林道の整備に関する事項	4
4 治山に関する事項	5
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	5
(1) 保護林の名称及び区域	5
(2) 緑の回廊の名称及び区域	7
6 樹木採取区の名称、所在地及び面積	7
7 レクリエーションの森の名称及び区域	7
8 公益的機能維持増進協定の名称及び区域	8
9 その他必要な事項	8
(1) 施業指標林、試験地等	8
(2) フィールドの提供	8
(3) 森林共同施業団地	8
(4) その他	9



1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域の配置については、国有林野施業実施計画図による。

2 施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha)

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢等	
施業群	スギ・ヒノキ普通伐期	361.52	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	スギ 50 ヒノキ55
	スギ長伐期	2,149.93	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	70
	ヒノキ長伐期	2,034.41	同上	80
	アカマツ長伐期	111.56	同上	80
	ケヤキ長伐期	32.90	同上	150
	その他人工林	52.41	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	60
	保護樹帯	561.59	被害木等について択伐を行う	60
	スギ・ヒノキ複層林	691.09	伐採箇所の縮小、分散化による複層伐を行う	スギ3段林80 ヒノキ3段林85
	天然林	0.75	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による択伐及び皆伐を行う	60
	天然林長伐期	1,706.47	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による択伐及び皆伐を行う	100
	天然林広葉樹	531.07	伐採箇所の縮小、分散化による択伐及び皆伐を行う	35
	しいたけ原木	10.69	皆伐1回目以降は、ぼう芽更新を行う	20
施業群設定外	—			
合計	8,244.39			

## (3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積	備考
通常伐期施業	33	スギ・ヒノキ普通伐期
		しいたけ原木
長伐期施業	309	スギ長伐期
		ヒノキ長伐期
		アカマツ長伐期
		ケヤキ長伐期
複層林施業	86	スギ・ヒノキ複層林
天然林・その他施業	407	その他人工林
		保護樹帯
		天然林
		天然林長伐期
		天然林広葉樹

## (4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区分	林地					林地以外	合計	
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計			
山地災害防止タイプ		173 (2)	173					
自然維持タイプ	—	—	—					
森林空間利用タイプ	—	6,910 (64)	6,910					
快適環境形成タイプ	—	—	—					
水源涵養タイプ	スギ・ヒノキ普通伐期	16,845	785					17,630
	スギ長伐期	—	91,367					91,367
	ヒノキ長伐期	623	87,522					88,145
	スギ・ヒノキ複層林	47,652	328					47,980
	天然林長伐期	11,981	—					11,981
	計	77,101	180,002 (1,750)					257,103
合計	77,101	187,085 (1,815)	264,186	18,814	283,000	—	283,000	
年平均	15,420	37,417 (363)	52,837	3,763	56,600	—	56,600	

注1 ( ) は間伐面積である。

2 四捨五入の関係で計と内訳の合計が一致しないことがある。

## (再掲) 市町村別内訳

(単位：m<sup>3</sup>)

市町村名	林 地					林地以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
大 分 市	—	8,304	8,304	/	/	/	/
臼 杵 市	6,899	30,061	36,960				
竹 田 市	1,670	37,366	39,036				
豊 後 大 野 市	66,532	44,250	110,782				
由 布 市	2,000	67,104	69,104				

注 臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

## (5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ <sup>○</sup>	自然維持 タイプ <sup>○</sup>	森林空間 利用タイプ <sup>○</sup>	快適環境 形成タイプ <sup>○</sup>	水源涵養 タイプ <sup>○</sup>	合 計
人工 造林	単層林成	—	—	—	—	36.32	36.32
	複層林成	—	—	—	—	87.14	87.14
	計	—	—	—	—	123.46	123.46
天然 更新	天然下種 第1類	—	—	—	—	—	—
	天然下種 第2類	—	—	—	—	18.80	18.80
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	18.80	18.80
合 計		—	—	—	—	142.26	142.26

## (6) 保育総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ <sup>○</sup>	自然維持 タイプ <sup>○</sup>	森林空間 利用タイプ <sup>○</sup>	快適環境 形成タイプ <sup>○</sup>	水源涵養 タイプ <sup>○</sup>	合 計
保 育	下刈	—	—	—	—	375.45	375.45
	つる切	—	—	—	—	102.71	102.71
	除伐	—	—	—	—	109.99	109.99
	ぼう芽整理	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	588.15	588.15

3 林道の整備に関する事項

基幹・その他別	開設・改良	路線名	箇所（林班）	延長（m）	備考
その他	開設	小河内2020林道	2020	700	
		尾平2015林道	2015	500	
		冷水林道2043支線	2043	500	
		熊ヶ谷2049林道	2049	600	
		熊ヶ谷2047林道	2047	700	
		垣河内62林道	62	800	
基幹	改良	冷水林道	2043	400	舗装等
		蛇越岳林道	216	500	舗装等
		扇山林道	53	400	舗装等
		小河内林道	2019、2020	500	舗装等
		柚河内林道	2045	500	舗装等
		申子林道	2046	800	舗装等
		申子林道47支線	2046	700	舗装等
		熊ヶ谷林道49支線	2049	400	舗装等
		桑河内林道	2044	700	舗装等
		熊ヶ谷林道	2048	300	舗装等
		熊ヶ谷林道48支線	2048	700	舗装等
		大戸河内林道	68	700	舗装等
		寺床林道	216	500	舗装等
		城ヶ岳林道	19	500	舗装等
		城ヶ岳林道城ヶ岳支線	19	500	舗装等
		扇山林道52支線	53	300	舗装等
		杭ヶ平林道	43	300	舗装等
		滞迫林道	2034	300	舗装等
		垣河内林道	61	500	舗装等
計	開設			3,800	6路線
	改良			9,500	19箇所

4 治山に関する事項

位置 (林班)	区分	工種	計画面量 (箇所数又は面積)
3、4、11～13、17～21、24～36、41～43、 47、48、52～54、57～72、167～177、215～ 217、225、2003～2010、2013～2049、2051 ～2058、2060、2062～2067、2070、2071	保安林整備	本数調整伐	455ha
3、4、11～13、17～21、24～27、33、34、47、 48、51～54、57～59、60～72、167～177、 215～217、225、2001、2003～2049、2051 ～2058、2060～2069、2070～2072	保全施設	溪間工	93箇所
3、4、11～13、17～21、24～27、33、34、47、 48、51～54、57～59、60～72、167～177、 215～217、225、2001、2003～2049、2051 ～2058、2060～2069、2070～2072	保全施設	山腹工	57箇所
計	保安林整備		455ha
	保全施設		150箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

区分	名称	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	備考
森林生態系保護地域	祖母山・傾山・大崩山周辺	2,321.00 (内訳) 保存地区 611.67 保全利用地区 1,709.33	2004と、よ 2005ほ、へ 2006は、に、へ 2007と、り、る 2008へ 2009と～り 2010は1、わ 2013ろ～ほ1 2014ぬ1、よ、た 2015る 2017い 2018ぬ、る 2019わ、か 2020ぬ、る 2021い～は 2022い～は 2023い、ろ 2024い～は、ち～よ 2025る、た 2026に、と 2027ち、ぬ 2028ほ、と、わ 2029は1、に1、か、よ 2030に、へ、る 2031は～る、か、イ 2032は2、は3、に～ち、 ぬ～れ 2033る、そ、そ1 2036ろ～ち1 2037は、ち、り、わ～よ 2041に～と 2042ち 2043ほ1、と 2071わ、ね、ら、う	標高1,000m以上の山地帯には太平洋岸気候の冷温帯湿潤気候の極相であるブナ林がみられ、標高700～1,000m付近にはアカガシ、ウラジロガシ等の常緑広葉樹林がみられる。 原生的な天然林を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに役立てるとともに、これらの森林を後世に引き継ぐこととする。	
計	1箇所	2,321.00			

区分	名 称	面積 (ha)	位置 (林小班)	特 徴 等	備考
希少 個体 群保 護林	坊ガヅルサワ グルミ等遺伝 資源	7.57	227は	サワグルミ、ミズ メ、ハリギリを主とす る落葉広葉樹天然林。 これらの遺伝資源を保 存する。	
	黒岳ミズメ等 遺伝資源	11.19	50い1	ミズメ、ブナ、イタ ヤカエデ等を主とする 落葉広葉樹天然林。こ れらの遺伝資源を保存 する。	
	大石檜山アカ ガシ等	18.34	2070は	常緑広葉樹林帯の上 限付近に成立する大分 県のみヤマシキミーア カガシ群集、それより 下部に成立するウラジ ロガシ-サカキ群集な どで構成される常緑広 葉樹天然林。	
計	3箇所	37.10			
合 計	4箇所	2358.10			



## (2) 緑の回廊の名称及び区域

名 称	延長 (km)	面積 ( ha )	位置 (林小班)	特 徴 等	備 考
該当なし					

## 6 樹木採取区の名称、所在地及び面積

名 称	所 在 地 ( 林 小 班 )	面積 ( ha )	備 考
該当なし			

## 7 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	面積 (ha)	位 置 ( 林 小 班 )	選定理由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考
自然休養林	由布鶴見岳	135.67	自然観察教育ゾーン 12の	別府市を母体とした観光レジャー開発進む近隣にある当該地は、四季折々の変化に富む自然的景観の特色を備えており、利用の方針は、登山、ハイキング、展望、自然探勝、動植物観賞等を主体とする日帰り型の森林レクリエーション利用を基本目標とする。	育成複層林へ導くための施業		休憩舎 標柱 ベンチ 木造標識 登山道	
			風景ゾーン 12つ		育成複層林へ導くための施業			
			12そ、ね		天然生林へ導くための施業			
			12ロ		林地以外の土地			
			風致探勝ゾーン 13ほ		育成複層林へ導くための施業			
			13に、へ〜り		天然生林へ導くための施業			
			13イ		林地以外の土地			

8 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

名称	区域 (林小班)	面積 (ha)	森林施業 の種類	林道の 開設等	設定年及び 有効期限	備考
該当なし	民					
	国					

9 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定 年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
試験地	スギダイナマハエ抵抗性 苗の現地適応試験 (1号試験地)	H16	0.30	11や2	林木育種センター 九州育種場
次代検定林	九熊本第79号	S56	1.50	19ろ1	スギ
	九熊本第100号	S62	1.00	19こ4	ヒノキ
	九熊本第33号	S48	1.50	33は1	ヒノキ
	玖珠署スギ	S41	0.60	216ろ2	スギ
	玖珠スギ2種(第1試験地)	S41	0.72	216ろ3	スギ
	九熊本第57号	S52	1.50	216よ	スギ
施業指標林	間伐施業指標林	H1	3.06	17へ	スギ・ヒノキ
	複層林施業指標林	H1	1.19	2052い2、い3	スギ・ヒノキ・ケヤキ
	間伐施業指標林	S60	1.50	2058わ1	スギ
遺伝子保存林	大分署ヒノキ	S39	0.39	17ろ1、ろ2	ヒノキ
森林施業 モデル林	溪仙峡水源かん養 モデル林(ケヤキ)	H12	3.66	25ぬ1	計画課

(2) フィールドの提供

対象地(林小班)	設定の目的	備考
該当なし		

(3) 森林共同施業団地

名称	対象地 (林小班)	面積 (ha)	協定の概要
該当なし	民		
	国		

## (4) その他

## レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置 ( 林 小 班 )	面積 (ha)	施 業 方 法
12ほ2 21ち、ぬ、ぬ2、ぬ4、ぬ6、る～よ、た、そ、 つ 175ち、ぬ 215い～に、る1～よ、れ、つ 216や、ま、ふ1～て 217る1～か 227に 2061へ～と 2063わ 2064る	84.92	育成単層林へ導くための施業
21ぬ1、ぬ3、ぬ5、ぬ7 175り 215る、た、た1、そ 216け、ふ、あ～め 217る、よ 2064い、ぬ	66.48	育成複層林へ導くための施業
21へ、と 47い、ろ 48い、ろ 49い～は 50い 51い、ろ 175る 215ね、ね1 216け1 227い、ろ、ほ、へ 2024よ1 2061ぬ～ぬ2 2062ほ 2063わ1、わ2 2064わ、か、れ～れ3、つ 2065い、た、た1 2066ほ、へ 2067よ～た1 2068へ、ち	1,191.10	天然生林へ導くための施業
2061イ～ハ 2062イ 2063ニ、ホ 2064イ 2065ロ 2066イ、ロ	174.36	林地以外の土地
計	1,516.86	

注 ふれあいの森その他森林空間利用タイプに設定している施業指標林、試験地等を除く。